

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500852		
法人名	社会福祉法人 高越会		
事業所名	グループホーム上板		
所在地	徳島県板野郡上板町神宅字堂床27		
自己評価作成日	平成27年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は幹線道路から少し入った静かな環境の中に位置している。建物は周囲の民家より少し高い場所に位置し、屋内の共有空間には大きなガラス窓からの眺めも良く、季節の変化を屋内からもち早く感じることができる。玄関には季節の花を植え、利用者様をお誘いし季節を実感して頂ける様配慮している。職員は利用者様一人ひとりのこれまでの生活を大切に、御家族、知人の来訪を頻繁なことできるように家庭的な雰囲気作りに努め、気軽に立ち寄って頂ける場所作りを目指している。また、あまり外出が出来ない利用者様の為に壁面を飾る事を工夫し、温かい環境作りに努めている。利用者様に尊厳を持って接する事により、穏やかな日々を過ごして頂けることを目標としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は川沿いの静かな環境に位置している。共用空間には大きな窓があり、四季の移り変わりを感ずることのできる、開放感のある空間となっている。管理者と職員は、チームワークが良く、法人の理念や事業所独自の週ごとの目標に沿って、つねに利用者の立場に立った介護サービスを心がけている。地域密着型サービスの特性を活かし、地域の人たちとの関わりを大切に取り組んでいる。地域の夏祭りや保育所の運動会、小学校の古紙収集等に参加したり、ボランティアによる阿波踊りなどの来訪を受け入れたりして、積極的に相互交流を進めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所自体の理念は開所当初からのものを初心を忘れぬよう各階に掲示している。また、日々の理念として細かく実践したい事も週単位で見つめ直し朝礼時、全員で復唱している。	朝礼時に、全職員で法人の理念と事業所独自の理念を唱和している。地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を支援の原点として捉え、職員間で理念について話し合って共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校への古紙回収に参加したり、神社の祭り、イベント等に参加し、地域住民との交流の場を設けられるよう努力している。	利用者と職員で近隣を散歩するなどしており、その際に地域住民と挨拶を交わしている。事業所として、小学校の運動会や地域行事等に参加している。利用者と職員で、隣接の施設との交流も行っている。ボランティアによる、阿波踊りや大正琴の演奏等の来訪を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献という点では充分ではないかもしれないが、二ヶ月に一回実施している運営推進会議や地域の方の来訪時、相談をお受けしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の参加を全御家族、近隣の方にも声掛けし、毎回違った意見を頂けるよう努めている。取り組み状況の報告により、意見を述べて頂き易い雰囲気作りにも配慮している。	運営推進会議は出席者の率直な意見を取り入れ双方向のものとなってはいるが、2か月に1回開催するまでには至っていない。また、民生委員や地域住民の代表者等の出席を得るまでには至っていない。	運営推進会議は、地域住民に事業所のことを知ってもらうための重要な機会であることから、定期的を開催するよう努められたい。また、様々な地域住民に出席してもらうことができるよう働きかけられたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から入居状況などの報告、運営推進会議へのご参加を通し密な連携が図れるよう取り組んでいる。また、町主催の運営委員会にも参加させて頂き協働関係を築いているよう取り組んでいる。	事業所では、実績報告や介護認定更新等の機会に町担当窓口を訪問し、情報を共有するようにしている。様々な情報を提供してもらうなどして、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月職員間での話し合いの時間を設けている。玄関の施錠に関しては時間に応じ開錠している。	身体拘束の廃止委員会を組成し、マニュアルを作成している。事業所では、新任職員が身体拘束の弊害に関する研修を受ける機会を設けている。職員間で施錠について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内において、高齢者虐待防止関連法について研修の機会を持ち学んでいる。また、虐待防止のための気づきチェックリストを参考に、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について事業所内外の研修等に参加、学ぶ機会を持ち、必要とされる利用者様には支援できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には不安、疑問に積極的にお答えし理解を得ている。介護度の変更時、負担割合導入にての利用料の変更についても来訪時直接説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、御家族の意見が得られやすいようアットホームな雰囲気作りに努めている。会話により心情を察し上手な聞き役となれるように心掛け、より多くの意見や要望を出して頂けるよう努めている。	毎月、家族へ利用者の生活状況等を送付するなどして、意向や希望を表出しやすい関係づくりに努めている。家族の来訪時には、全職員で話しやすい雰囲気に努めたり、声かけを心がけたりしている。家族から出された意向等は、運営面に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回開催する全体ミーティング、毎日の朝礼・夕礼を通し、職員の意見・要望を募り検討、運営に反映している。	代表者や管理者は、毎月の全体ミーティング時に職員のケアに対する提案等を聞くようにしている。また、個別にも話を聞く機会を設けている。管理者と全職員は、出された意見について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は二週に一回事業所を訪れ、管理者、職員の現場の意見を聞くように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加を募り、勤務にて参加できる体制作りに努め、働きながら技術や知識を身につけていく事ができるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上板町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会、上板町地域密着型サービス運営協議会、上板町地域包括支援センター運営協議会への参加を通じ、同業者や関係機関との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思い、不安感を傾聴し、安心感が得られるように配慮している。希望や訴えがしやすいよう聞き役となる事を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人との関係性を含め、御家族の思いが汲み取れるよう会話を行っている。不安感、要望等を理解した上で、サービス提供に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応には充分留意し、記録、報告を通しサービスが適応しているかどうかの判断を細かく行っている。サービスの場に馴染み安心した生活ができるまで御家族との連携も密に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本来の個性、暮らし方を尊重できるよう「みんなでいっしょに支えあう」の基本理念の下、職員は共に過ごし、学び、共感できる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の“便り”には近況報告に加え、写真を貼り表情を見て頂いている。これまでの関係性を繋いでゆけるよう意見を取り入れ、共に支援していく体制作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際に馴染みの場所に立ち寄り、近隣の神社に参拝している。また、知人、友人の来訪によりこれまでの関係性が保てるよう支援している。	毎年、利用者と職員で初詣に出かけている。家族の協力を得たうえで、一時帰宅や墓参り、外食等の支援も行い、馴染みの人や場所等との関係の継続に留意し取り組んでいる。知人や友人の来訪も快く受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を日頃から理解し、職員間で情報を共有している。トラブルには充分気を配り接している。レクリエーションを通し関係が温かなものとなるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方には、介護情報を提供、情報交換しやすい体制作りを努めている。また、訪問にて関係性が断ち切れないように配慮、御家族とも関係性を保てるよう努力している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の意見や希望をお聞きしケアプラン作成に努めている。希望や意向の把握が困難な場合は行動や表情から御本人の思いを把握し、反映できるように取り組んでいる。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの思いを把握するよう努めている。意志の表出が困難な方には、家族や関係者等から情報を得るなどして、その人らしい暮らしの実現に向けた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始後も御本人や御家族から情報を聞き、継続してアセスメントを実施する事により、利用者様への理解を深める努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の生活リズムを把握し、出来る事の把握に努めるよう全職員で情報を共有している。洗濯たみや、掃除、簡単な調理等それぞれ出来る事を發揮して頂けるようケアプランに反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施。3ヶ月ごとに担当者会議を行い、現状に応じた介護計画の作成に努めている。	本人や家族の意向を尊重し、主治医や関係者の意見を聞いたうえでモニタリングを行っている。利用者の心身状況の変化に応じて、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況、暮らしの様子を個別記録に記入している。御本人の言葉もありのまま記入し、その中から御本人の主訴を推察して介護計画の見直しや作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じて、通院や送迎の支援に対応している。マッサージを希望される御家族がおいでで接骨院の先生による訪問マッサージを受けられている方がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店を利用したり、地元の教育機関、警察、消防などと交流し、利用者様が地域で安心して生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医が、利用者全員の状態を把握した上で、各専門医の受診をする事により適切な医療を受けられる様な体制をとっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。毎週、協力医療機関の医師による往診がある。専門科の受診時には、職員が同行するときもある。家族とも情報を共有するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師の訪問有り状態の報告を行っている。その時その時で適切なアドバイスを頂き、処置方法などについても指導して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーにより、情報提供を行っている。日頃の支援方法について記載し重要な項目については口頭で説明しており、入院中はお見舞いに行かせて頂くなど状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化されている方については御家族に細かい状態報告を行うとともに、今後についての話し合いを行っている。他施設へ予約希望されている方もおいでる為その都度対応している。	管理者が中心となって、家族等に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明している。しかし、契約時や利用者の心身状況の変化に応じて、利用者や家族の意向を再確認をするまでには至っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、周知徹底している。急変や事故発生時の基準を明確にし、全職員が対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成している。消防署のご協力のもと、年二回の訓練を隣接する施設と合同で実施し、家族や地域の方々にも連絡し参加を依頼している。	事業所では、災害時に備えてマニュアルを作成している。災害時に備えて、3日分の衛生用品や飲料水・食量を備蓄している。また、年2回、隣接の施設と合同で避難訓練等を実施しているが、事業所独自の避難訓練を行うまでには至っていない。	

自己	外部	項目	1F		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある人生を送って頂くことを理念としており、一人ひとりの人格を尊重し、利用者様の自尊心を傷つけることのないケアを提供できるように心がけ指導している。	職員間で、利用者一人ひとりの自尊心を傷つけることのないような、さり気ない声かけや誘導のあり方について話し合っている。職員間で話し合ったことを日頃の実践に活かすよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で十分な意志表示が出来ない利用者様の場合は表情や行動から思いをくみとり、一人ひとりに合った声掛けに留意する事で自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールはあるが、一人ひとりのペースを大切に利用者様自身に合わせた対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は出来るだけ本人の意思で選んでいただき、女性には行事の際など化粧の声掛けを行っている。男性には髭剃りの声掛けを行い、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	モヤシの根取り、後片付け等一緒に行っている。裏庭で野菜を育て、収穫、調理することにより、これまでの生活習慣を継続できる支援にも心掛けている。	事業所の菜園では、利用者と職員で野菜を栽培している。育てた野菜を収穫して、献立に活用している。利用者や職員は、食材の下ごしらえや後付けをともに行っている。桜の咲く季節には、庭に出てお花見をするなど、食事に興味や楽しみを持つことができるよう工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や食事量、水分量を把握し、摂取量が低下している利用者様に対しては原因の究明を行い、その方に合った個別の食事を用意するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。御自分で出来ない方については職員が介助し口腔内の清潔保持に努めている。夜間は義歯を預かっている。		

自己	外部	項目	1F		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間は十分睡眠がとれるようにオムツ使用、日中は活動しやすいように紙パンツ使用等、その方のその時に応じた排泄支援を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、ポータブルトイレやトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間は紙パンツを使用する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫、水分補給、軽体操により便秘予防に取り組んでいる。芋がお好きな方には芋をお出しする等、下剤に頼らない自然排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めずに、排便のあった日に入浴されたり、体調の良い日に入浴されたりするよう個々の状態に応じた入浴ケアに努めている。	毎日、入浴することができるよう準備をしている。また、季節感のある柚子湯や菖蒲湯等を取り入れ、入浴を落ち着いて楽しむことができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の把握に努め、その時々状況に応じて休息されるよう支援を行っている。日中の活動を支援し、夜間安眠や生活リズムの調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬の処方内容を整理し、目的や効能、副作用について理解している。処方内容の変更時には状態の観察を怠らず、医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を生かした役割を見出すことができるよう、日々の会話の中からヒントを得ている。嗜好品、趣味、得意な事をアセスメント欄に記入し、職員間で共有している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族のご協力の下、墓参りや畑を見に外出支援を行っている。また、散歩が出来ない日は玄関先の花を見に行く等気分転換への配慮を行っている。	利用者と職員で、近隣の公園や敷地内を散歩している。また、毎年、初詣に出かけたり、家族の協力を得たうえで外食に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を持参されることで安心感が得られている方もおり、御家族にも説明を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があった場合にはその都度対応、いつでも電話の利用ができる事を説明している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有空間には季節の花を生けたり季節ごと、イベントごとに壁面を飾り季節を感じて頂けるよう配慮している。光の調整はロールカーテンにて行い、心地よく過ごせるように努めている。	共同空間には、季節の花や置物を配置している。大きな窓からは暖かい日差しが差し込んでおり、四季の移り変わりを見ることが出来る。壁面には、利用者と職員で作成した季節の作品を飾っている。利用者同士が集まって会話を楽しんだり、ゲームや童謡を歌ったりしており、居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にもソファや椅子を用意し、廊下の隅にテーブルを置くなどして、利用者様が独りになって落ち着ける環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた環境に出来るだけ近い状態で過ごせるよう、御家族と相談の上使い慣れたものを使いやすいように配置している。	居室には、利用者の使い慣れた家具や品物等を持ち込んでもらっている。利用者によっては、愛犬の写真や家族の写真等を置いている方もいる。利用者一人ひとりが安心して穏やかに過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる位置に手すりを設置し、車椅子の方も安心して利用できるトイレを配置している。危険防止に努め、安全で自立した生活が送れる環境になっている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所自体の理念は開所当初からのものを初心を忘れぬよう各階に掲示している。また、日々の理念として細かく実践したい事も週単位で見つめ直し朝礼時、全員で復唱している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校への古紙回収に参加したり、神社の祭り、イベント等に参加し、地域住民との交流の場を設けられるよう努力している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献という点では充分ではないかもしれないが、二ヶ月に一回実施している運営推進会議や地域の方の来訪時、相談をお受けしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の参加を全御家族、近隣の方にも声掛けし、毎回違った意見を頂けるよう努めている。取り組み状況の報告により、意見を述べて頂き易い雰囲気作りにも配慮している。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から入居状況などの報告、運営推進会議へのご参加を通し密な連携が図れるよう取り組んでいる。また、町主催の運営委員会にも参加させて頂き協働関係を築いていけるよう取り組んでいる。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月職員間での話し合いの時間を設けている。二階玄関の施錠に関しては時間に応じ開錠している。事務所の施錠については必要時のみとしている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内において、高齢者虐待防止関連法について研修の機会を持ち学んでいる。また、虐待防止のための気づきチェックリストを参考にして、虐待防止に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について事業所内外の研修等に参加、学ぶ機会を持ち、必要とされる利用者様には支援できる体制を整えている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には不安、疑問に積極的にお答えし理解を得ている。介護度の変更時、負担割合導入にての利用料の変更についても来訪時直接説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、御家族の意見が得られやすいようアットホームな雰囲気作りに努めている。会話により心情を察し上手な聞き役となれるように心掛け、より多くの意見や要望を出して頂けるよう努めている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回開催する全体ミーティング、毎日の朝礼・夕礼を通し、職員の意見・要望を募り検討、運営に反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は二週に一回事業所を訪れ、管理者、職員の現場の意見を聞くように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加を募り、勤務にて参加できる体制作りに努め、働きながら技術や知識を身につけていく事ができるよう支援している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上板町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員会、上板町地域密着型サービス運営協議会、上板町地域包括支援センター運営協議会への参加を通じ、同業者や関係機関との交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思い、不安感を傾聴し、安心感が得られるように配慮している。希望や訴えがしやすいよう聞き役となる事を心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人との関係性を含め、御家族の思いが汲み取れるよう会話を行っている。不安感、要望等を理解した上で、サービス提供に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応には充分留意し、記録、報告を通しサービスが適応しているかどうかの判断を細かく行っている。サービスの場に馴染み安心した生活ができるまで御家族との連携も密に行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の不安や悲しみ、喜び等を知るように努めている。介護している意識を持たず、人として接する事により、信頼関係が築けるように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の“便り”には近況報告に加え、写真を貼り表情を見て頂いている。これまでの関係性を繋いでゆけるよう意見を取り入れ、共に支援していく体制作りにも努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際に馴染みの場所に立ち寄り、近隣の神社に参拝している。また、知人、友人の来訪によりこれまでの関係性が保てるよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を日頃から理解し、職員間で情報を共有している。トラブルには充分気を配り接している。レクリエーションを通し関係が温かなものとなるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方には、介護情報を提供、情報交換しやすい体制作りに努めている。また、訪問にて関係性が断ち切れないように配慮、御家族とも関係性を保てるよう努力している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の意見や希望をお聞きしケアプラン作成に努めている。希望や意向の把握が困難な場合は行動や表情から御本人の思いを把握し、反映できるように取り組んでいる。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始後も御本人や御家族から情報を聞き、継続してアセスメントを実施する事により、利用者様への理解を深める努力をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の生活リズムを把握し、出来る事の把握に努めるよう全職員で情報を共有している。洗濯たみや、掃除、簡単な調理等それぞれ出来る事を発揮して頂けるようケアプランに反映している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施。3ヶ月ごとに担当者会議を行い、現状に応じた介護計画の作成に努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的状況、暮らしの様子を個別記録に記入している。御本人の言葉もありのまま記入し、その中から御本人の主訴を推察して介護計画の見直しや作成に役立てている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況に応じて、通院や送迎の支援に対応している。リハビリを希望される御家族がおいでで、介護保険のサービスではなく病院からの送迎でリハビリに参加されている方もいる。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理髪店を利用したり、地元の教育機関、警察、消防などと交流し、利用者様が地域で安心して生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医が、利用者全員の状態を把握した上で、各専門医の受診をする事により適切な医療を受けられる様な体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師の訪問有り状態の報告を行っている。その時その時で適切なアドバイスを頂き、処置方法などについても指導して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーにより、情報提供を行っている。日頃の支援方法について記載し重要な項目については口頭で説明しており、入院中はお見舞いに行かせて頂くなど状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化されている方については御家族に細かい状態報告を行うとともに、今後についての話し合いを行っている。他施設へ予約希望されている方もおいでる為その都度対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、周知徹底している。急変や事故発生時の基準を明確にし、全職員が対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成している。消防署のご協力のもと、年二回の訓練を隣接する施設と合同で実施し、家族や地域の方々にも連絡し参加を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある人生を送って頂くことを理念としており、一人ひとりの人格を尊重し、利用者様の自尊心を傷つけることのないケアを提供できるように心がけ指導している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で十分な意志表示が出来ない利用者様の場合は表情や行動から思いをくみとり、一人ひとりに合った声掛けに留意する事で自己決定の支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールはあるが、一人ひとりのペースを大切に利用者様自身に合わせた対応に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は出来るだけ本人の意思で選んでいただき、女性には行事の際など化粧の声掛けを行っている。男性には髭剃りの声掛けを行い、身だしなみに配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	モヤシの根取り、後片付け等一緒に行っている。裏庭で野菜を育て、収穫、調理することにより、これまでの生活習慣を継続できる支援にも心掛けている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調や食事量、水分量を把握し、摂取量が低下している利用者様に対しては原因の究明を行い、その方に合った個別の食事を用意するなど工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。御自分で出来ない方については職員が介助し口腔内の清潔保持に努めている。夜間は義歯を預かっている。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		トイレでの排泄が出来るように、立位訓練等を行っている。トイレにてウォシュレットを使用することにより清潔保持が出来る様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		食材の工夫、水分補給、軽体操により便秘予防に取り組んでいる。便秘がちな方には牛乳を飲んで頂く等、個々に応じた予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		ゆっくり入りたい方は午前中にゆっくり入っていたり、希望やタイミングに合わせた入浴支援を行っている。できる事は自分でして頂くよう見守るケアを心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		体調の把握に努め、その時々状況に応じて休息されるよう支援を行っている。日中の活動を支援し、夜間安眠や生活リズムの調整に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		個別の薬の処方内容を整理し、目的や効能、副作用について理解している。処方内容の変更時には状態の観察を怠らず、医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		嗜好品、趣味、得意な事をアセスメント欄に記入し、職員間で共有、楽しみのある生活が出来る様努めている。朝の掃除や、食事の後片付け等役割分担することで生き生きとした生活支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		ほぼ毎日お越しくださる御家族もおいで散歩、ドライブを楽しみとされている。御家族の来訪が少ない方には職員が散歩、前庭への外出支援を行い、気分転換されるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お守り代わりに、と小銭を持参されている方、就寝前になると小銭を数えられる方もおられ、安心感は得られている様子。日用品の買物は付き添いを行う事で買いたいものを選んで頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	二名の方が携帯電話を所有されており、大切な家族との会話をされている。その他の方についても希望時に電話をし、直接会話され安心感を得られている様子。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有空間には季節の花を生けたり季節ごと、イベントごとに壁面を飾り季節を感じて頂けるよう配慮している。光の調整はロールカーテンにて行い、心地よく過ごせるように努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にもソファや椅子を用意し、廊下の隅にテーブルを置くなどして、利用者様が独りになって落ち着ける環境作りに努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた環境に出来るだけ近い状態で過ごせるよう、御家族と相談の上使い慣れたものを使いやすいように配置している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる位置に手すりを設置し、車椅子の方も安心して利用できるトイレを配置している。危険防止に努め、安全で自立した生活が送れる環境になっている。			